

八幡市公共施設等総合管理計画(要約)

令和4年3月 改訂分

1. 計画策定の背景

本市では、市政施行後、市民サービス向上のため多くの公共施設を整備してきましたが、多くの施設が建設から相当年数が経過しており、今後、大規模改修や建替えが必要となることが見込まれています。

一方で、

- ・ 少子高齢化
- ・ 人口減少
- ・ 財政制約

などが進む中、限られた行政資源の効率的配分が求められています。

2. 計画の目的

本計画は、

- ・ 公共施設のあり方の見直し
- ・ インフラ施設を含めた総合的管理
- ・ 将来負担の軽減
- ・ 市民が利用しやすい施設配置
- ・ 民間活力の活用

を目的として策定されています。

3. 計画期間

計画期間は、

平成29年度～令和28年度(30年間)とされています。

4. 本市の現状

(1) 人口減少・高齢化

本市では、

- ・ 総人口の減少
- ・ 生産年齢人口の減少
- ・ 高齢化率の上昇

が進行しています。

これにより、

- ・ 学校施設の余剰
- ・ 高齢者福祉施設需要増

- ・市民ニーズの変化
などが想定されています。

(2) 財政状況

本市では、

- ・歳入増加が見込みにくい
- ・社会保障費増加
- ・投資的経費増加

などにより、厳しい財政状況が続いています。

5. 公共施設の現状

(1) 施設数・延床面積

対象施設は、156施設 延床面積 約22万㎡ となっています。

(2) 主な施設累計

- ・市民文化系施設
- ・社会教育系施設
- ・スポーツ施設
- ・学校施設
- ・子育て施設
- ・福祉施設
- ・行政施設
- ・公営住宅
- ・インフラ施設

などで構成されています。

(3) 老朽化の状況

公共施設の平均築年数は約36年であり、多くの施設で老朽化が進んでいます。

また、

- ・旧耐震基準施設：約58%
- ・新耐震基準施設：約42%

となっています。

6. インフラ施設の状況

主な対象

- ・道路
- ・橋りょう
- ・上水道
- ・下水道
- ・公園
- ・河川

などが対象です。

主な課題

- ・老朽化
- ・更新費用増加
- ・維持更新費増加

などが見込まれています。

7. 中長期的経費の試算

(1) 単純更新パターン

現在の施設を維持し続けた場合、約1,167億円(24年間)が必要と試算されています。

(2) 長寿命化パターン

長寿命化を実施した場合でも、約823億円(24年間)が必要と試算されています。

※24年間とは、令和4年～令和27年度になります。

※単純更新パターンとは、目標耐用年数を主体構造別に設定(例：鉄筋コンクリート造であれば60年)し、建替えまでの中間年度(例：鉄筋コンクリート造であれば30年)に大規模改修を行い、目標耐用年数経過後に建替えをおこなうもの

※長寿命化パターンとは、3種類の主体構造(鉄筋コンクリート造、鉄筋鉄骨コンクリート造、鉄骨造)に該当し、かつ築40年以下の施設について長寿命化(目標耐用年数80年)を行う場合を想定した試算を実施するもの

(3) 課題

現在の投資的経費水準と比較しても、将来的に多額の財政負担が見込まれ

ています。

8. 基本方針

本計画では、

- ・ 公共施設の適正配置
- ・ 長寿命化
- ・ 統廃合
- ・ 更新費用の平準化
- ・ 民間活力活用

などを基本方針としています。

9. 今後の方向性

人口減少・高齢化・財政制約が進む中、「全てを維持する」から「必要な施設を重点的に維持する」方向への転換が必要とされています。

10. まとめ

本計画では、

- ・ 人口減少
- ・ 高齢化
- ・ 老朽化
- ・ 財政制約

などを踏まえ、

- ・ 公共施設の適正配置
- ・ 長寿命化
- ・ 効率的な維持管理

を進めることで、

- ・ 持続可能な行政運営

を目指す方向性が示されています。